

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22年 9月 8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3470104369		
法人名	社会福祉法人 広島光明学園		
事業所名	グループホーム光明牛田		
所在地	〒732-0067 広島市東区牛田旭一丁目14番26号 (電話) 082-211-3040		
自己評価作成日	平成22年9月8日	評価結果市町受理日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/kaigo/ApplicationServlet?ACTIONTYPE=ViewDetailAction&JIGYOCODE=3490100116&SERVICECODE=96
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	医療福祉近代化プロジェクト
所在地	〒739-1733 広島市安佐北区口田南四丁目46番9号
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

<p>2階と3階とで1ユニットながら、家庭的な雰囲気を大切に、ご利用者様と職員が家族のように過ごして頂いている。 また、本部である光明学園を中心に行事に参加したり、地域行事にも積極的に参加している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>4階建てのビルを改装し2階と3階を居室としている。2～3階の移動はすべてエレベーターによらなければならないので、移動そのものは大変であるが、明るいホールを確保し、居室は広い窓から十分な採光があり広々感じられる。建物に面した道路は、車の往来は多いが室内は静かで、また、歩道が整備されており散歩は可能である。街中であるため家族や古い友人・知人等の訪問には便利である。職員は家庭的な雰囲気を大切にし和やかで楽しい暮らしをして頂くよう努めている。光明学園のシルバー祭には入居者で作ったちぎり絵を出展するなど暮らしの変化にも気を配っている。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	3つの理念をつくりあげ、毎朝復唱している。また、それに伴い、取り組みを行っている。	家庭的な雰囲気大切にします。地域の人との交流を心掛けます。明るい笑顔を絶やさぬよう心掛けます。以上の理念を毎朝3回復唱し常に念頭に置いて介護するよう努力している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	光明全体で広報している。地域行事には常時参加している。	夏祭り、ほおずき祭りや盆踊りなどの行事に参加するとともに、清掃活動など地域の一員として活動している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	行事などの参加を基に、光明全体で話し合いの場を作り、取り組んでいる。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一回実施しており、民生委員、地域の人達の参加において、報告、意見、話し合いを行い、サービス向上に活かしている。	2か月に1回開催。民生委員、利用者の家族、町内の希望者の方に参加して頂き、ホームの現状報告をするともに地域の情報をききアドバイスして頂いている。	光明全体が地域に密接に関わられ、その中でグループホームとしての役割を担っておられます。今後の取り組みとして、近隣の老人クラブ等に呼びかけられ、更に絆を深められることが期待されます。
5	4	市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいます。	運営推進会議が中心であるが、光明の管理部署が、市町村との連携を図り、常に連携を図っている。	運営推進会議が中心ではあるが、ごく、近所に光明の管理部署があり、包括支援センターもグループ内にある。管理部署を中心に光明全体で一体的に取り組み市との連携を密にしている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束はしない、マニュアルを作成し、職員全員が理解し、実践している。また、ご家族にも説明し、理解を得ている。	一人歩きされる方はおられないが、街の中心部であり不測の事態に備え、エレベーターの作動は職員が確認して解除している。身体拘束はしておらず、職員は虐待・拘束について研修しよく理解している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部研修等参加し、管理者、職員とも虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	施設内研修等、学ぶ機会を設けている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	常に本人・家族との話し合いを基に、理解、納得をして頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	普段より連絡を密に行い、相談の受入がしやすい状況作りに努め、苦情などの相談窓口を決め、サービス改善に努めている。	モニタリングにより利用者全体の要望を把握し、お見舞いに来られた時やお便り等を通じそれぞれの家族と密接に連絡を取るようになっている。利用者の中には外国育ちで日本語が不自由な方もあるが、家族から要望を聞き意思疎通図っている。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員会議等設け、話し合いを基に、実践できるよう心がけている。	職員会議では自由に発言し、入居者の決定は管理者だけでなく職員も参加して決めるなど職員の意見を取り入れている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の自己調査等、話し合いの場を設け、各自の向上を図っている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	内部研修会を行い、育成の向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	電話欄案等、他の施設との交流を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>入所前に面接を行い、本人の話をよく傾聴し、要望は受け止め、相談も乗るよう努力している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>面談の際に、ご家族の要望、不安等を聞き、よく話し合いを行っている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人が何を必要とされているかを見極め、介護計画を作成し、実行するよう努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>家庭的な雰囲気大切にしながら、職員とご利用者様との関係を身近に感じられるよう、心がけている。</p>		
19		<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ご家族の協力を基に、ご利用者様との生活がスムーズにできている事を実感している。また、常時報告も行っている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>ご家族に確認し、知人の面会や、また、外出の機会を設けて頂くよう努めている。</p>	<p>居室での身の回り品はなじみのもの、湯呑などを持参して貰っている。ディサービスと一緒にいた友人がお見舞いに来られることもある。ご本人が了解される場合を除いて、見舞いに来られる方については家族の許可を得ている。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。</p>	<p>ご利用者様同士が、関わり合えるよう、職員も間に入り、支援している。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。</p>	<p>居宅事業所、民生委員との連絡等を通じ、時折、訪問しながら関係を大切にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	それぞれの個々の他事が発揮できるように努めている。また、ひとりひとりの尊重・尊厳を守っている。	居室でぬり絵をしたり、お見舞いに来た娘さんと習字をされる方もある。散歩など十分とは行かないができるだけ希望に応じるようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今までの生活に馴染みのある物を持ち込んで頂くなどして、これまでの生活環境に近くなるよう、可能な限り支援している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	個々の日常の変化など、個人記録に細かく書きとめ、現状把握することに努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人、ご家族の要望を取り入れた計画を立て、実行し、いつでも職員が確認できるよう、個人ファイルを作成している。また、モニタリングを通し、見直しを行っている。	お一人おひとりの希望や家族の要望を聞き、関係者で話し合い適切な介護計画をたて、いつでも職員が確認できるよう個別のファイルを作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者一人ひとりの個人記録を行い、日々の生活や本人の状況を具体的に記録し、情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	光明全体の行事に参加したり、お誕生会など、本人の要望を含めた支援をしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議では、民生委員、地域住民との情報交換を行っている。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、ご家族様が希望されている、かかりつけ医を含め、納得された医療機関での受診をしている。	かかりつけ医へ受診を希望される場合、出来るだけ家族の同行をお願いしているが、職員がお連れすることもある。提携病院へ変更される場合、かかりつけ医から紹介状を貰っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ホームの看護師を中心に、毎日の体調状況の申し送りを行い、一人ひとりの健康管理および支援を行っている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、早期退院できるよう、お見舞いや医師の話を通じて、ご家族と連絡を取り、常に現状把握している。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族様とよく話し合い、状況説明も細かくしている。かかりつけ医師に相談を密に行い、その内容も全てご家族に連絡をした上で、ご家族の意思を尊重した支援に努めている。	終末期は救急搬送で病院でお亡くなりになることもある。家族とよく話し合い、変化を見落とさないよう、入院は短期で済むよう、看取りができる質の高いケアを目指している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	応急手当や初期対応の訓練など、内部研修を通して実践力を身につける機会を設けている。緊急時のマニュアルを作成。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害防止のマニュアルを作成し、全職員が対応できるように努めている。また、避難訓練を行い、非常時に対応できるようにしている。	非常災害時の対応手順やマニュアルを作成し、通報する関係機関の一覧表を備えており、避難訓練を実施している。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者一人ひとりを尊重し、尊厳を守っている。また、個々に合わせた声かけなどの対応を行っている。	食事時など、そっと零れたものを拭きとったり、トイレの声かけなど目立たないよう行っている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者が、希望や要望の言える雰囲気作りと、それを促す取り組みを行っている。また、一人ひとりに合わせた支援を行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご利用者様一人ひとりの生活ペースを大切に、保てるように配慮、支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	個人の選択を重視した身だしなみができるよう支援している。またボランティアを利用し、施設内にて散髪を行っている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	お誕生日には、個人の好きな食べ物を提供できるよう努めている。また、おやつなど、盛り付け、片付けなど一緒に行っている。	さりげない職員の見守りの中で食事をされており、ご飯もお皿に盛り一口ずつ食べられるよう工夫されていた。昼食は当番1名と一緒に食事をする。季節の行事、お誕生日などは特別なメニューで変化をつけるようにしている。	食材は法人全体に共通で供給され、レシピを参考に施設ごとに適合するように調理されると説明された。当番以外の職員も食卓の近くで、食事のあまり進まない方や偏食のある方の見守りをされるよう期待します。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個人の食事・水分摂取量の記録を毎日行い、健康保持の支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	個人のADLに合わせた口腔ケアを行い、清潔保持の支援を行っている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄記録をこまめにとり、個々の排泄パターンを把握し、日中、夜間共声かけ、トイレ誘導を行っている。	お一人おひとりの排泄パターンを記録しこまめにトイレ誘導しおむつを使用しないように努めている。夜間もポータブルを使用しながら誘導するようにしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	日常、乳製品、食物繊維を含む食品を中心に提供している。また、医師の指示を仰ぎ下剤等の薬にて対応している。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	週に2~3回の入浴予定と、本人の希望に合わせて入浴を行っている。また、入浴ができない時は、清拭や足浴を行い対応している。	入浴日は週2~3回予定しているが希望者されれば入浴日以外でも入浴できる。入浴の嫌いな方もいる気配りや工夫をして入って頂くよう努めている。体調などにより入浴できない方には、清拭や足浴を行っている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一日の生活リズムを作り、自然に睡眠が取れるよう、工夫や声かけを行っている。また、自室での休憩時間も取り入れている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者の薬は職員が管理し、薬の効果を把握し、服薬を行っている。また、誤薬のないよう、名前、日付を確認し、個々の薬箱にて管理している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の生活リズムに基づき、洗濯物を畳んだり、掃除などをして頂いている。また、個人の趣味を活かしたり、散歩を取り入れている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候により、近場の散歩に出かけるよう、心がけている。また、通院を含め、ご家族と一緒に外出ができるよう、ご家族にも協力を得ている。	天気の良い日には隣接する小学校のまわりを散歩したり、母体の法人が開設する保育園や特養のシルバーまつりなどの行事に参加したりできるだけ外出の機会を増えるようにしている。ご家族の訪問時には外食や散歩など自由にして頂いている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金は、施設側で管理している。心の安定の為、本人管理もある。個々の買い物帳を作成し、レシート、領収書を添付し記入している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人の希望を聞き、電話をかけたたり、郵便物を預かり、ポストに入れたり、支援を行っている。		
52	19	居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ホールは明るく、植物、置き物、テレビ、ソファ、オルガン等を置き、壁には絵や写真を飾り、くつろげるスペースを作っている。	ホール中央に大きなテーブルが置かれ、食事のほかみんなが集まる団らんの場となっている。壁には絵や写真が貼ってあり、植物や置物が飾られテレビの前のソファでゆったりくつろげる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	中央にテーブル、ソファ、テレビ等を設置し、いつでもくつろげるスペースをつくっている。また、自由に過ごせるよう配慮している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで、利用されたなじみの物を持ってきて頂き、自室と同じような雰囲気作りを行い、生活して頂けるように工夫している。	使い慣れた湯飲みや家具、家族の写真などなじみの物を持参して頂き、出来るだけ家庭的な雰囲気の中で暮らしていただけるよう配慮している。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	滑り止めや段差の改善、手すりの設置など、入居者の状況に合わせ、安全に生活ができるように、工夫している。		

アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の3分の2くらいと 家族の3分の1くらいと ほとんどできていない

グループホーム光明牛田

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている		ほぼ全ての職員が 職員の3分の2くらいが 職員の3分の1くらいが ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての利用者が 利用者の3分の2くらいが 利用者の3分の1くらいが ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		ほぼ全ての家族等が 家族等の3分の2くらいが 家族等の3分の1くらいが ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム光明牛田

作成日 平成 22年 9月 8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		散歩や買い物などの外出回数が少ない	個人のニーズに合わせて、要望時に実践できるようにする。	1日に午前と午後に分けて、散歩の計画を立てる。	
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。